

湖水地方はイングランド北部のアイランド側の、比較的起伏の多い地域です。名前の通り、湖が多くありますが、これらの中には氷河の氷が溶けた痕のものがあり、細長く、かなり浅い湖の両側はU字又はV字形の谷になっており、川に沿って、古来の建築資材のスレート採掘場もあります。大地にはそのスレートを積み上げて、ヒツジ飼育用の区切りとしています。

去年のこの地域の天候はかなり不順だったようで、11月には水位が約2メートルも上がり、道路は冠水してしまい、通行できず、家も浸水したとのこと。この時期（6月）は日照時間も長く、朝、既に明るくなりつつある4時頃から鳥のさえずり声で起こされてしまうことになりませんが、それもこの地ならではの生活です。

日本では、この地域に関連したピーター・ラビットとワズワースについては多数の記事がありますし、パッケージ旅行も非常に多く組まれていますから、今回は旅行案内書にはあまり触れられていない見所を紹介させていただきます。

1) Tarn Hows*

UK最大の湖 Windermere (mere はバイキングの言葉ノース語で湖の意味)湖畔のほぼ中間に Bowness という町があります。この湖はその Bowness からは Windermere の向こう側の地域にあり、この小さな（周囲を囲む歩道の長さは約 2.5 km）人工的に作られたこの湖には、水鳥は住みついているし、この地の固有種のハドウィック羊が手の届くような場所まで来て無心に草を食べています。その小高い湖畔からながめる湖の風景は、風が強いのが難点ではあるのですが、イーゼルでも立てたくなる気にさせられます。



2) Windermere 南端



この地域の湖のほぼ一般的な風景です。水辺近くまで芝が張られ、その岸側斜面に木が生え、道路が付けられています。水面には浮遊物もなく、極めて清潔な感じ。たまたまこの場所は、公園化されており、ボート置き場も右手前に作られています。National Trust の案内人はいるものの、一般観光客は来ていません。

3) Honister Slate Mine*

ここではスレートそのものの純実用的採掘は終わってしまっていますが、見所はその周辺の地形で、ご覧のようにV字形の谷があり、その底部に川があり、そのすぐ上に道路を付けています。勿論、ここにもヒツジは放牧されており、斜面の草を食べています。



4) Derwentwater*



Water という地名はこの地域では湖を指しています。湖を一周するボートが運航されており、ハイキングをする人はこのボートで途中まで行って、好みの場所からすり鉢状の斜面を登っています。小さい湖ですが、周辺の斜面に登ったり、湖を取り囲む林の中の歩道沿いに湖を一周することも可能です。

5) Castlerigg Stone Circle*

UKの南にあるストーン・ヘンジは非常に有名ですが、ここにも同じような石を配置したストーン・サークルがあります。建造の目的は諸説あるようですが、中心部に立つとパワーがもらえるという噂もあり、その部分の草がはげてしまっています。ここは石がならんで置いてあるだけで、石が横向きに乘っている訳ではありませんが、夏至の朝の光が当たる時に一直線になるように何個かの石が並べられているとのこと。ご覧のように地元の方は、ピクニックに行く場所に行っているようです。



6) Aira Force



Force という名前はこの地では滝を意味しています。この滝は、この地域で2番目に大きい湖 Ullswater の近くにあります。ここでは、水の流れに沿って樹木が生え、下草もあり、十分に水分が保持されています。地元の方々はイヌを連れて散歩に来られていらっしゃる。この地域は一般に静かで、特にこの滝の区域は滝音といい、その滝つぼから流れる水音が聞こえます。

7) Rydal Mount

この地域にはUKの詩人ワズワース所縁の建物等がたくさん残っていますが、ここもその一つで、この詩人の最後の住居だった所だそうです。ワズワースの住居としてダブコテージが知られていますが、今はそこからは湖は見えません。その後に移ったこの写真の場所の庭から Rydal 湖方面を撮ったもので、水面が遠くに少し見えます。庭は斜面を生かして、自由に設定されています。



8) ハドウィック種のヒツジ



この羊はこの地域特有種とのこと（在来種との交配は試みられたようですが）。生まれて1年目（最も右の一頭）は真っ黒で、体色は加齢と共にしだいに灰色(写真左側)になるとのことです。

この他には、ピーター・ラビットの話が出てくるぐらいですから、当然予想されますが、かなり小型の野生のウサギが多数生息しています。日中は低木の中に隠れていて、人目に付くことは少ないようです。



9) Troutbeck 村の老人ホーム



Bowness から少し北側の斜面に Troutbeck 村があります (Trout は鱒、beck は川の意味だそうで、言わば「鱒の住む川」ぐらいの意味でしょうか)。この地に老人ホームがあり、その庭を地元の方々がボランティアで非常に良く手入れをしておられます。見所はその庭です。

*印を付けた場所は、パーク・ツアーズ社「日本人ガイド付き湖水地方一泊2日手ぶらの旅」(「地球の歩き方」掲載) に組み込まれています。